

まちなかIT集積地に

高専研究室と商店街協力

アメリカのシリコンバレーのように、商店街にIT関連企業を集積させようという取り組みをしている、まちなかシリコンバレー。銀座通商店街と協力し店舗を借りている。シリコンバレー内には、IT関連企業の株式会社ASKプロジェクト（橋爪康知代表取締役）が入居。佐賀市の民生委員向けの業務サポートアプリを開発し試験運用が進められているほか、大牟田商工会議所が取り組む洋風かつ井のホームページ（HP）作成やマップ、チラシを受注するなど市内でも業務を展開している。

全国向けのアプリ開発へ



子ども向けのイベント

野口卓朗副社長は「今年全国的に通用するアプリ開発をしたいですね。もちろん大牟田での認知度をさらに高め、有明高専で育った優秀な技術者が地元で就職できるような企業に成長していきます」と意気込んでいる。

まちなかシリコンバレーには有明高専電子情報工学科の石川洋平准教授と銀座通商店街、佐賀市のIT企業などが参加し構想をまとめ、二十五年度に大牟田市の「まちづくり基金」を活用し銀座通商店街内に事務所を開設。現在は有明高専のサテライトオフィスも入居しており、ITのほか地元企業との産

学連携の拠点となっている。



開発したHP

教職員も経営学ぶ

宮崎や大分はじめ市内高校も

ほかに、まちなかシリコンバレーは毎週日曜日に地域向けのイベントを開催しているほか、教育者向けに経営や経済の勉強会も定期的で開催している。

「これからの教育者に求められるのは、本業の専門教育も大事ですが、学生たちが卒業後、どのような企業で求められるか、どう能力を活用するのかといった企業のニーズを知ることにも重要になってきました。そこで高専の先生たちには呼びかけたところ、有明高専だけでなく、宮崎や大分の高専の先生たちも参加されたり、市内の高校からも先生が学ばれたり、広がりを見せています。講師も永利新一さんなど最前線で活躍されている方にお願ひしています」と石川准教授。

また、市民向けにも昨秋には、新栄町の交流施設「えるる」で子ども向けに太陽光と電池の電力を自動的に切り替える「ハイブリットカー」の工作教室を開くなど市民の認知度を高める取り組みもしている。